

日本風景街道の課題



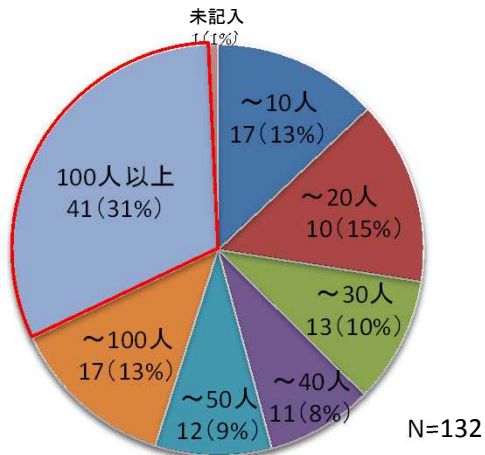
風景街道パートナーシップの組織体制

《平成28年度 風景街道パートナーシップアンケート結果より》

- 所属人数は100人以上が約3割と最も多い。
- 主体的に活動している人数は10人以下が約5割と最も多く、10～20人が約3割。
- 中心的な役割を担う年齢層は60歳代が最も多く、全体の傾向から組織の高齢化が懸念。

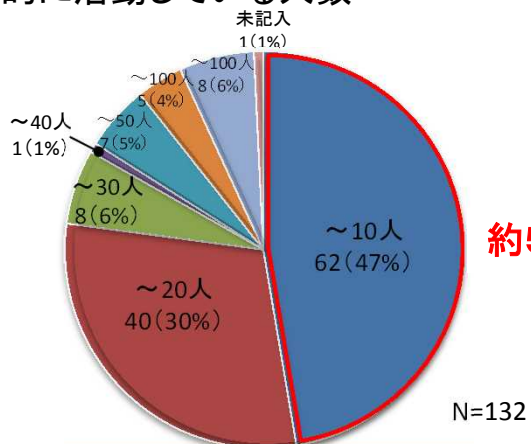
■ 所属人数

約3割



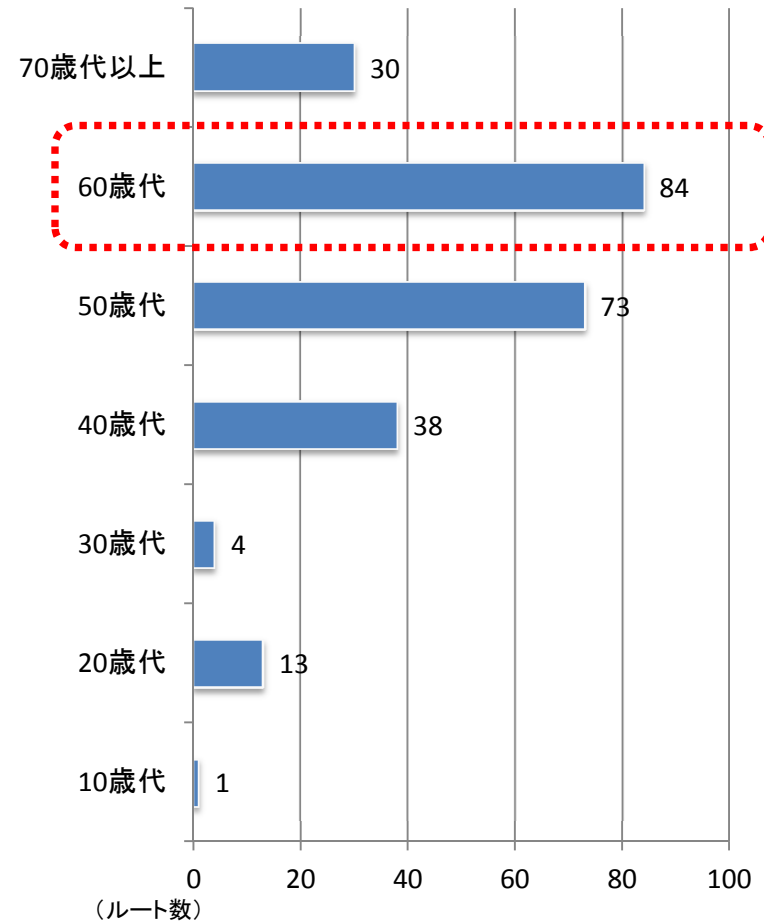
■ 主体的に活動している人数

約5割



■ 中心的な役割を担う年齢層

(複数回答)



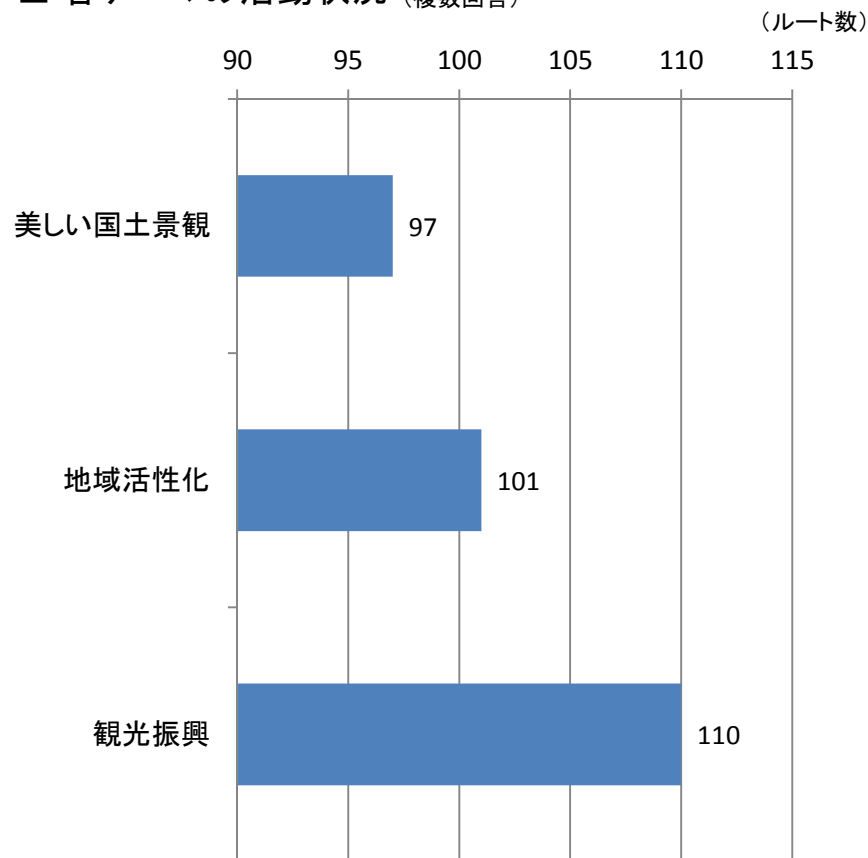


これまでの活動状況

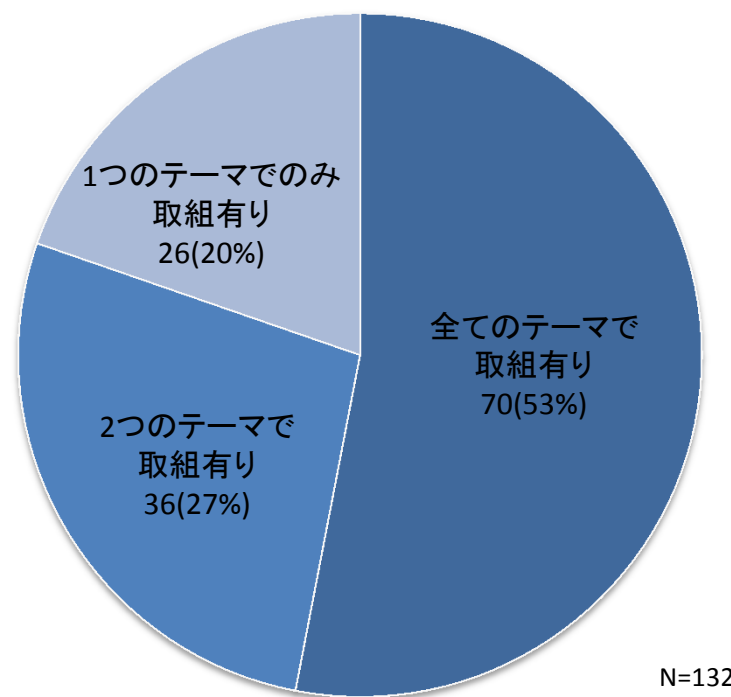
《平成28年度 風景街道パートナーシップアンケート結果より》

- 今までに取り組んできた活動は、美しい国土景観:97ルート、地域活性化:101ルート、観光振興:110ルートと観光振興がやや多い傾向。
- 全てのテーマで活動があるルートが70ルートと約5割。一方で、1つのテーマでの活動が26ルートと約2割ほど存在。

■ 各テーマの活動状況 (複数回答)



■ 活動状況の傾向



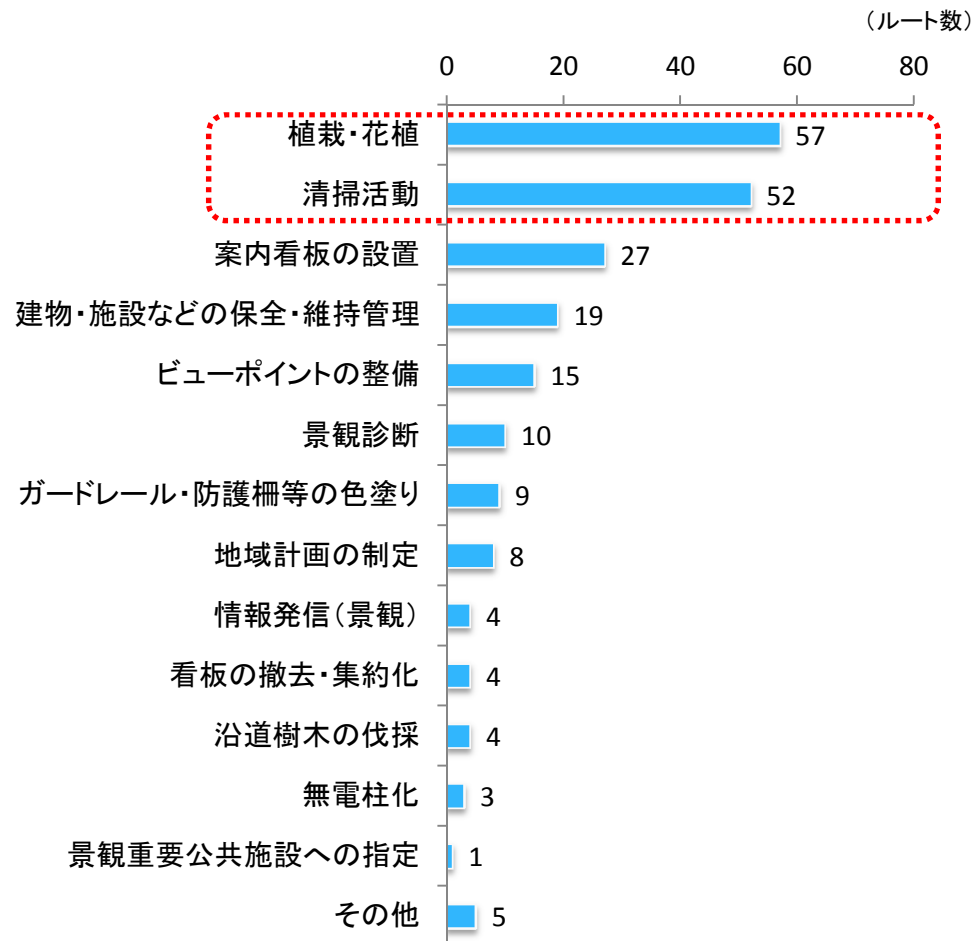


国土景観の形成に関する活動

《平成28年度 風景街道パートナーシップアンケート結果より》

○ 今までの活動としては、「植栽・花植」(57ルート):約4割)、「清掃活動」(52ルート:約4割)に取り組んできたルートが多い傾向。

■ 今までの活動内容



■ 具体の活動内容(抜粋)

今までの活動内容

【植栽・花植】

- ・イエローリボンプロジェクト ・フラワーロードの植栽
- ・立体の花壇設置 ・プランター等への植栽
- ・道の駅での植栽

【清掃活動】

- ・クリーンウォーク ・ゴミ持ち帰り啓発 ・草刈
- ・シーニックデッキのメンテナンス除草

【案内看板の設置】

- ・統一看板の整備 ・町並み案内看板の設置 ・学校と協働の看板

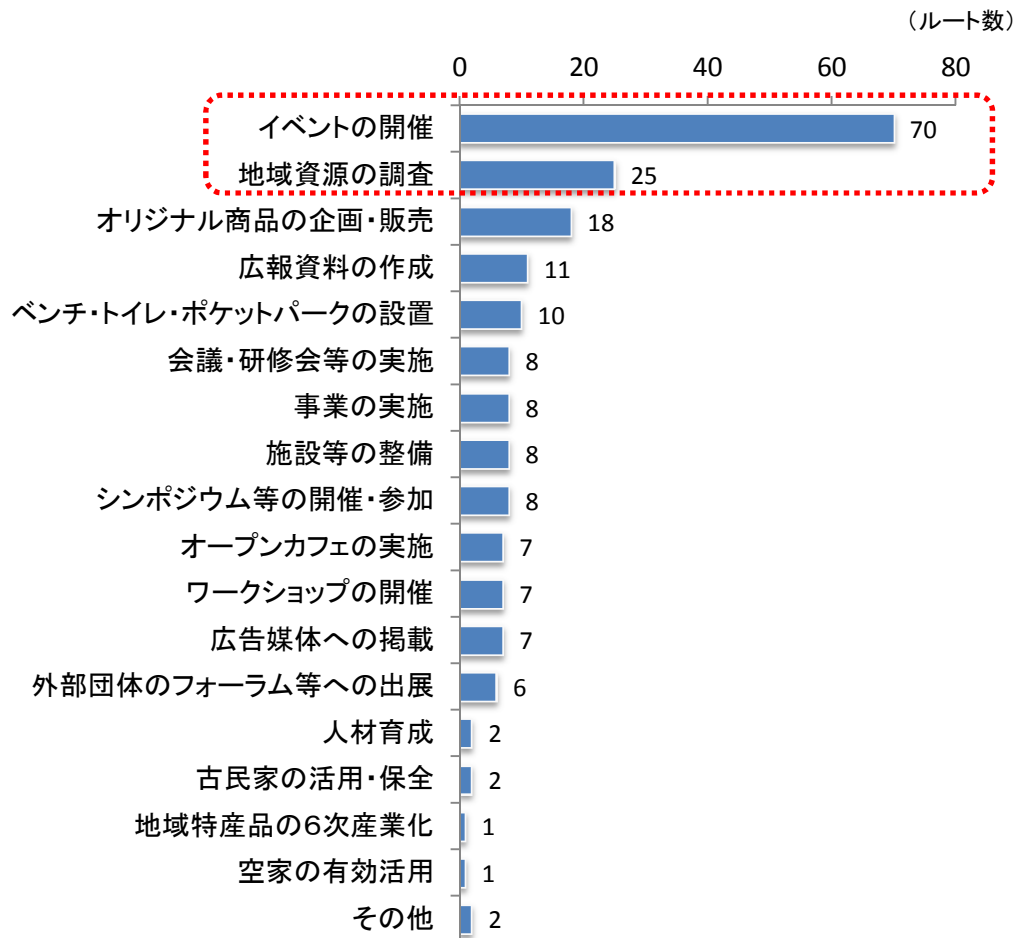


地域活性化に関する活動

《平成28年度 風景街道パートナーシップアンケート結果より》

○ 今までの活動としては、「イベントの開催」に取り組んできたルートが最多(70ルート:約5割)で、次いで「地域資源の調査」(25ルート:約2割)。

■ 今までの活動内容



■ 具体の活動内容(抜粋)

今までの活動内容

【イベントの開催】

- ・フォトコンテストの企画、実施 ・旧街道を活用したトレッキング
- ・地酒の試飲会 ・学校、地域と連携したお祭り
- ・道の駅と連携したガイドツアー ・グルメイベント

【地域資源の発掘調査】

- ・歴史の道の調査 ・まだ確認できていない旧街道のルートの探索
- ・近代産業施設調査 ・サイクリングルートの調査

【オリジナル商品の企画・開発】

- ・カレンダー ・ポストカード ・橋カード

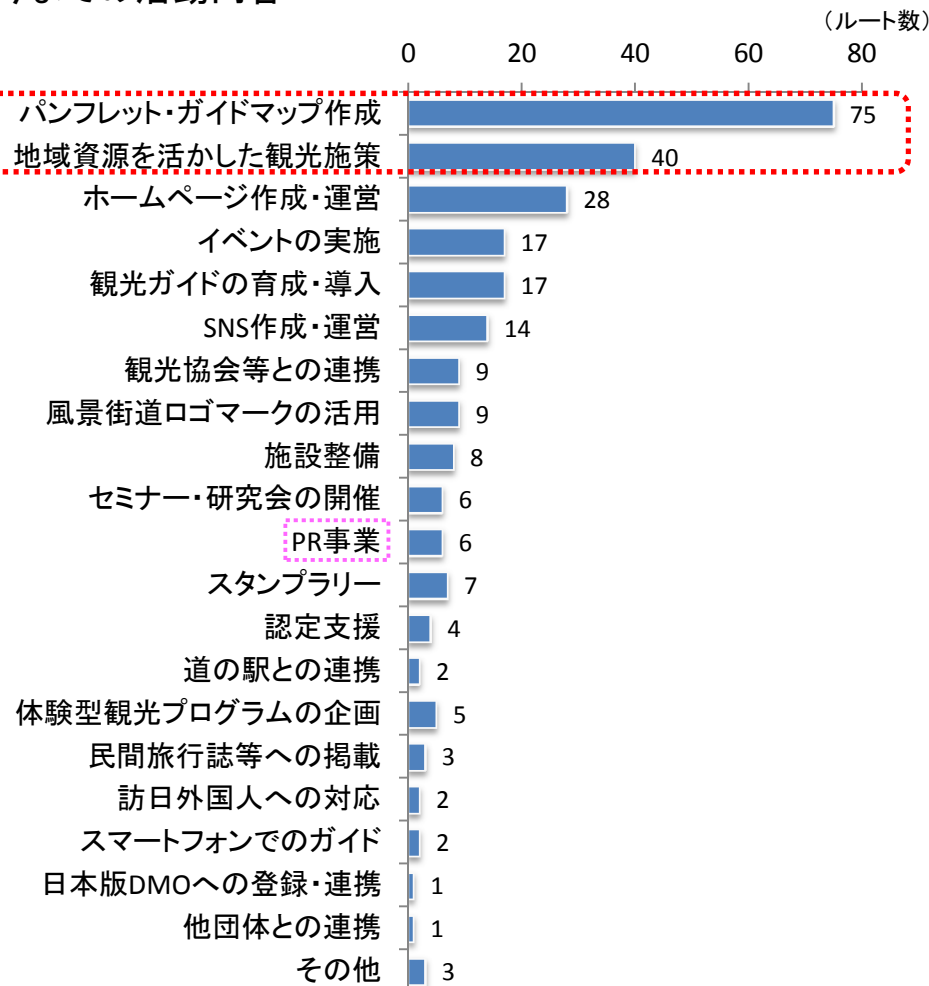


観光振興に関する活動

《平成28年度 風景街道パートナーシップアンケート結果より》

○ 今までの活動としては、「パンフレット等の作成」(75ルート:約6割)、「地域資源を活かした観光施策」(40ルート:約3割)に取り組んできたルートが多い傾向。

■ 今までの活動内容



■ 具体の活動内容(抜粋)

今までの活動内容

【パンフレット・ガイドマップの作成】

- ・地域の歴史マップを作成し、道の駅等で配布 ・より道マップ
- ・小学生とその親たちと一緒に街道を巡りマップ作成
- ・トイレ情報を盛り込んだマップの作成

【地域資源を活かした観光施策】

- ・ホテル観賞会 ・自転車観光ルート(ツアー)づくり
- ・絶滅危惧種植物など約200種類の山野草が観察できる公園作り

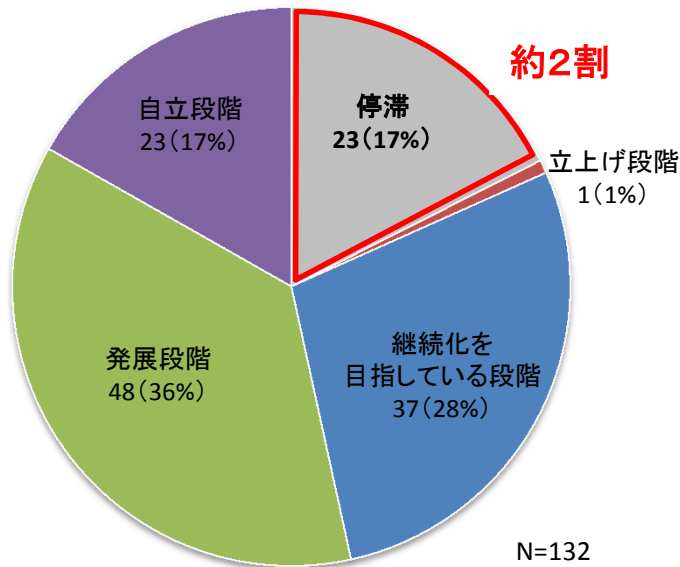


組織の成熟度①

《平成28年度 風景街道パートナーシップアンケート結果より》

- 発展段階が48ルートと最も多いものの、停滞が23ルートと約2割存在。
- 停滞と回答したルートは、H26年度時点で継続化を目指している段階であったルートの約5割。
- 経年的にみると自立段階は年々増加傾向(H26:13ルート→H28:22ルート)。

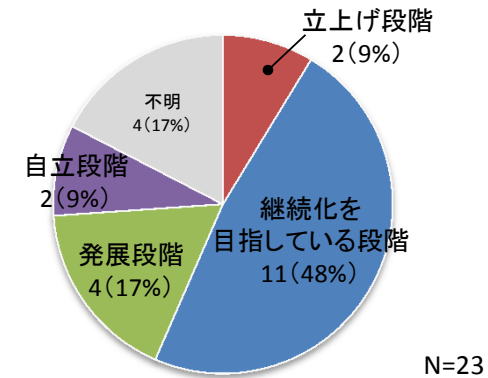
■ 組織の成熟度



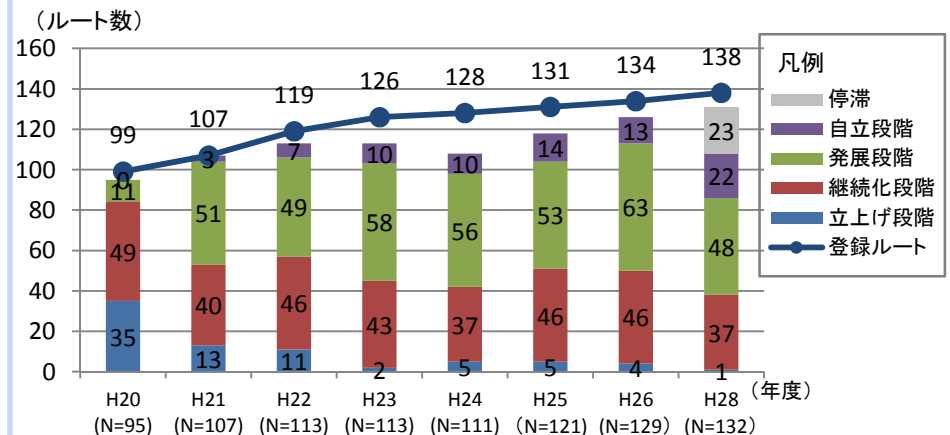
立上げ段階: 事務所等の助言や支援を受けながら活動を行っている段階
継続化を目指している段階: 活動の継続化へ向けて努力している段階
発展段階: 活動の幅、規模、種類などを拡げ活動の質を高めようと努力している段階
自立段階: 風景街道の活動主体として目指す姿の実現へ向けた取組を自力で考え実行できる段階
停滞: 活動が停滞し、今後の方向性が不明確な状態

注:「停滞」は H28年度調査より新規に項目を追加

■ 停滞と回答したルートのH26年度調査時点の成熟度



■ 成熟度の経年推移(H20~H28)



注1: H27年度は未調査

注2:「停滞」は H28年度調査より新規に項目を追加

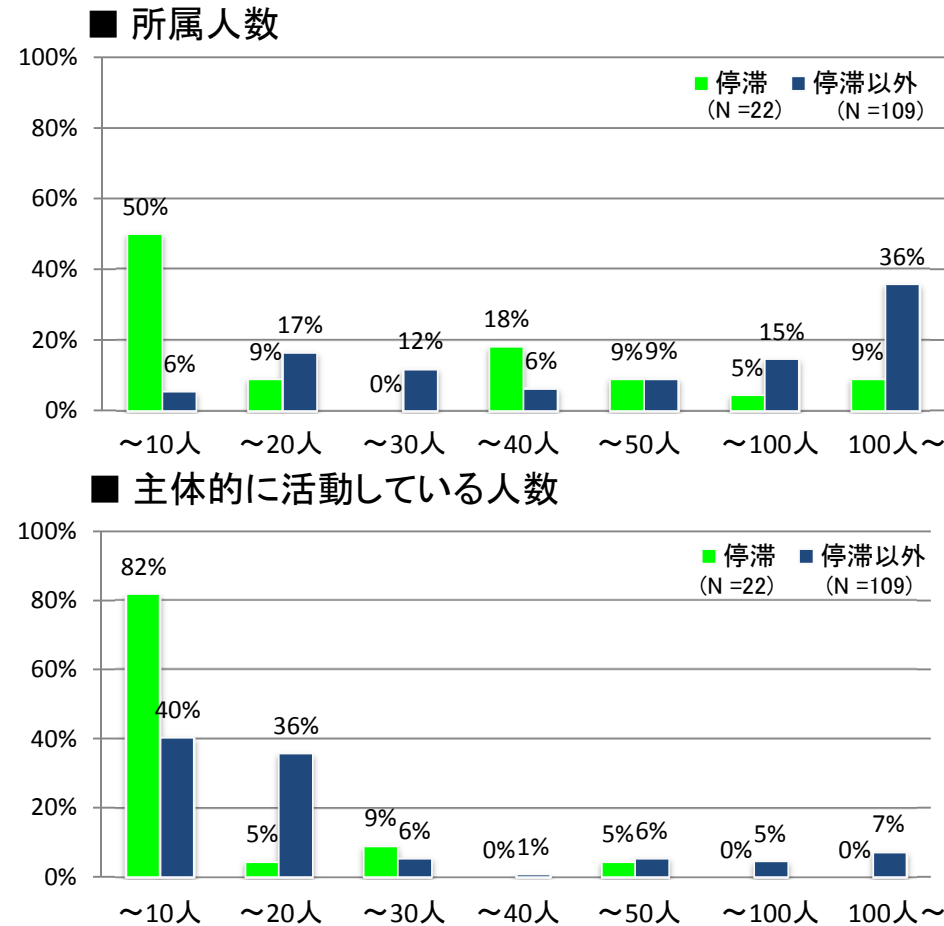


組織の成熟度②

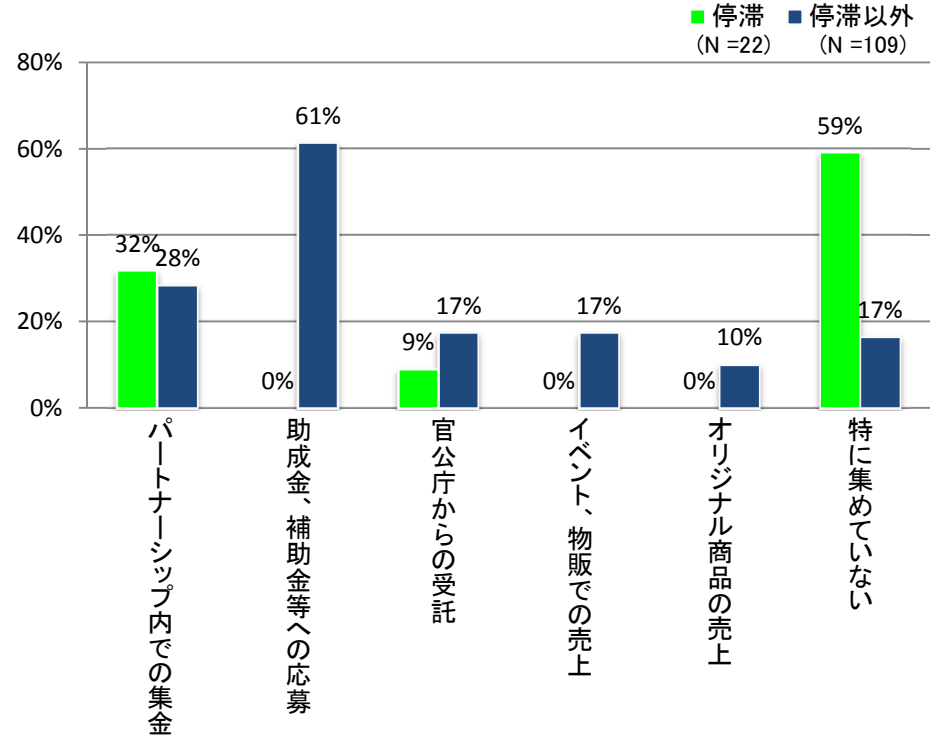
《平成28年度 風景街道パートナーシップアンケート結果より》

- 停滞と回答したルートは、活動人数が比較的少なく、特に主体的に活動している人数が10人以下であるルートが他と比較して顕著に多い。
- また、資金も特に集めていないもしくは、日本風景街道活動団体内での集金が主である。

体制面



資金面



注: 未記入のルートは集計対象から除外



パートナーシップからの意見

《平成28年度 風景街道パートナーシップアンケート結果より》

【認知度が低い】

- ・風景街道の認知度の向上は、鶏と卵の関係とも言えるが、標識に表記できるようにして頂けるとありがたい。青の標識の中に、ロゴマークが入るようになればいい。
- ・風景街道の情報発信先が少ないと感じる。発信先は一般ユーザー。一般ユーザーに情報が発信できる方法を考えないと。
- ・企業の参加を得るために、風景街道の知名度も低く、かつ参加登録に対し、企業にとって地域にとってのメリットを示すことが難しく、参加団体が増えていかない。
- ・国としての取組(重み)が、道の駅の取組(重み)に対して軽いと感じており、国としても風景街道の知名度向上に更なる取組みを実施していただきたい。
- ・風景街道全体の認知度向上のために、テレビ等のマスメディアを通じた積極的な情報発信、パンフレット等の設置場所確保など積極的な周知方法を示してほしい。

【資金・体制の不足】

- ・風景街道の事務局はNPOが担っており、活動・運営などの財源がないため、活動の広がりが持てない。特に、パートナーシップの会議(通信費、会場費)、ホームページや情報誌など風景街道ルートが独自に情報発信できるツールが維持できない。NPOやNPOスタッフのボランティアで成り立っているため、パートナーシップの運営が厳しい。そのため新しい人材も入れにくい。
- ・民間主体でがんばっている推進協議会は、自治体主体と比べて予算面や体制面で苦労しています。
- ・パートナーシップの団体への新規加入者がなく、団体内での高齢化が進み、活発な活動ができない。

【連携不足】

- ・道の駅、ジオパークと風景街道がタイアップできれば、非常に良い協働相手になると思う。この点を理解いただき、積極的に動いてほしい。
- ・地元自治体の意識の低さや熱意の欠如が致命的である。国土交通省側からも啓蒙を図ってほしい。

【好事例等の共有不足】

- ・活用しやすい補助金や助成金メニューなどがあれば、定期的に情報共有していただきたい。また、申請に当たってのサポート(相談窓口、書類の書き方等)も可能な範囲でご支援いただけるとありがたい。
- ・全国の活動内容や資金源を知るための情報共有出来る手段が欲しい。
- ・風景街道への付加価値の上乗せ及びその効果的なPRなどについて、他市等で成功した事例をご教授ください。
- ・他団体の先進事例を教えていただけると、今後の参考にできありがたいです。



提言「質の高い日本風景街道に着手するために」

「日本風景街道自治体連絡会、NPO法人日本風景街道コミュニティ」（平成29年4月26日）
— 抜粋 —

1. 道路・みち について

- ◆道路の快適性を追求する必要がある、国際性のある道路空間にステイタスアップすることが重要になっている。
道路の景観管理などのため活動現場から官民が協働する新たな仕組みづくりの構築が求められている。

2. 日本風景街道の制度と活動について

- ◆日本風景街道を道路行政施策の中に明確に位置付ける。
- ◆日本風景街道の価値と必要性が高まっており、地方創生回廊は日本風景街道そのものであり、広域連携を実現する次のステージ、質の高い日本風景街道に着手する。
- ◆第二ステージを迎えた日本風景街道の制度目的や仕組み、運動手法、市町村、企業の位置づけなどパートナーのあり方、ルートの評価、活動費などを再考、討議する場を設ける。
- ◆日本風景街道の認知度を高めるため、道路上の表示、カーナビへの掲載方法など、日本風景街道の見える化を図る。



日本風景街道の課題について

- 「日本風景街道」の認知度が低い
- 停滞が見られるルートが存在
- ルート登録後に活動状況の確認等を行うスキームがない
- 資金・人員体制が不足
- 関係者間の推進に向けた議論が不足
- 地元自治体との連携が弱い
- 好事例や助成制度等の共有が不足

等